日本建築学会中国支部研究報告集　第41巻
平成30年3月

新設された高齢者通所介護施設のコーナー配置
－高齢者通所介護施設の平面構成とコーナー配置　その 3－

正会員　○塩見　和か*
正会員　三島　幸子**
正会員　中園　眞人***
正会員　田　甜*
正会員　孔　相権****
正会員　山本　幸子*****

通所介護施設　空間構成　家具配置
コーナー配置

1. はじめに

その 2 では新設された高齢者通所介護施設を対象に平面構成の分類を行い、面積規模との関係を明らかにした。そこで本報では新設された 23 施設において利用者の中心の居場所である主室のコーナー配置に着目し、平面型との関係性と特徴を明らかにすることを目的とする。

調査は家具配置のスケッチを行い、家具配置図の作成、活動場面の記録調査を行った。調査時期は 2010 年 5 月から 2016 年 9 月である。

2. 主室のコーナー配置

2.1　コーナー配置の分類

本報では行動観察調査に基づいた一日の生活プログラムから利用者の基本的な行為として機能訓練（T)、食事（L)、午睡（S)、トレーニング（R)、その他自由時間（F）を抽出し、各行為が行われるコーナーを設定し、主室におけるコーナー配置と平面型の関係を整理した[注 1)]。コーナーの設定は家具や設えによって明確に区分されるものとし、行為の重複の種類により FTL 系列、FL 系列、その他の 3 つに大区分し、さらにその他のコーナーの有無及び種類により 6 つに小区分した。コーナー配置と分離室の有無及び分離室での行為の関係を表 1 に示す。FTL 系列は 16 事例が該当し、自由時間、機能訓練、食事を同一空間で行う。FTL 系列では、主室における午睡コーナーの有無により 2 つに区分され、午睡コーナーを有す FTL+S タイプは 13 事例と多い。特に分離室無しが 8 事例と FTL 系列の事例数の半数を占め、最も多い。分離室有りは午睡室として使われる事例が多い。

FL 系列は 7 事例が該当し、FTL 系列でみられた食事と機能訓練を分けたコーナー配置である。さらに機能分化手法により 3 つに区分される。FL+T タイプは FTL タイプから機能訓練コーナーが分化したタイプで、FTL タイプと同様に分離室に午睡空間を集約し、トレーニングを行う

表 1　平面型とコーナー配置の関係

系列	主室のコーナー配置	分離室 無	分離室 有	分離室での行為		計
FTL	FTL +S (+R)	8	3	S		16
			1	R		
			1	S	R	
	FTL		2	S		
			1	S	R	
FL	FL +T		1	S	R	7
	FL +FTS	1	1	S		
	FL +TorFT +S	2	2	S		
その他	TL +FS	1				1
計		12	12			24

凡例）F：自由時間　T：機能訓練　L：食事
S：午睡　R：トレーニング

表 2　コーナー配置と面積規模の関係

系列		分離室	小規模（0～99.9㎡） 施設記号	主室 L	S	R	E	O	分1 S	分2 S	中規模（100～149.9㎡） 施設記号	主室 L	S	T	E	O	C	分1 S	分2 S	R	分3 S	R	大規模（150㎡～） 施設記号	主室 L	S	T	R	E	O	C	分1 S	R	分2 S	分3 R
FTL	FTL+S	無	tA	FTL	S						K*	FTL	S		E								tU*	FTL	S					C				
			tB	FTL	S			0			t0*	FTL	S S		E		C																	
			tC	FTL	S																													
			tE	FTL	S	R	E																											
			tH	FTL	S																													
		有	F	FTL	S				S		Nt	FTL	S					S	S				W	FTL	S S				0 0	C		R		
											M*	FTL	S		E			S					V	FTL	S			E E	0	C	S		S	R
	FTL	有	lt*	FTL			E	0	S	S	Pt*	FTL			E			S	S		S													
											St*	FTL			E			S	S			R(注)												
FL		無									tJ	FL	FTS		E								T	FL	S S	T			0					
																							t0*	FL	S S	T		E						
		有	Gt	FL	FTS			0	S		Lt*	FL	S	FT		0		S					Rt	FL	S	T	R			C			S	
											S'*	FL		T	E	0	C	S		R(注)														
その他			tD	TL	FS																													
計			9	9	8	1	2	3	3	1	9	9	6	2	7	2	2	6	3	1	1	1	6	6	6	3	1	2	3	4	2	1	2	1

凡例）F：自由時間　T：機能訓練　L：食事　S：午睡　R：トレーニング　E：ゆとりの空間　O：事務　C：配膳　分：分離室　t：畳　＊：併設施設
注1）施設14・15は廊下の一角にトレーニングコーナーを設置
注2）主室に畳をもつ場合は施設記号の左に、分離室に畳をもつ場合は施設番号の右に t を表示

Corner type of newly established day care facility for the elderly
The planning construction and corner type of day care facility for the elderly part 3

SHIOMI Nodoka, MISHIMA Sachiko, NAKAZONO Mahito, DEN Ten, KOH Shoken, YAMAMOTO Sachiko

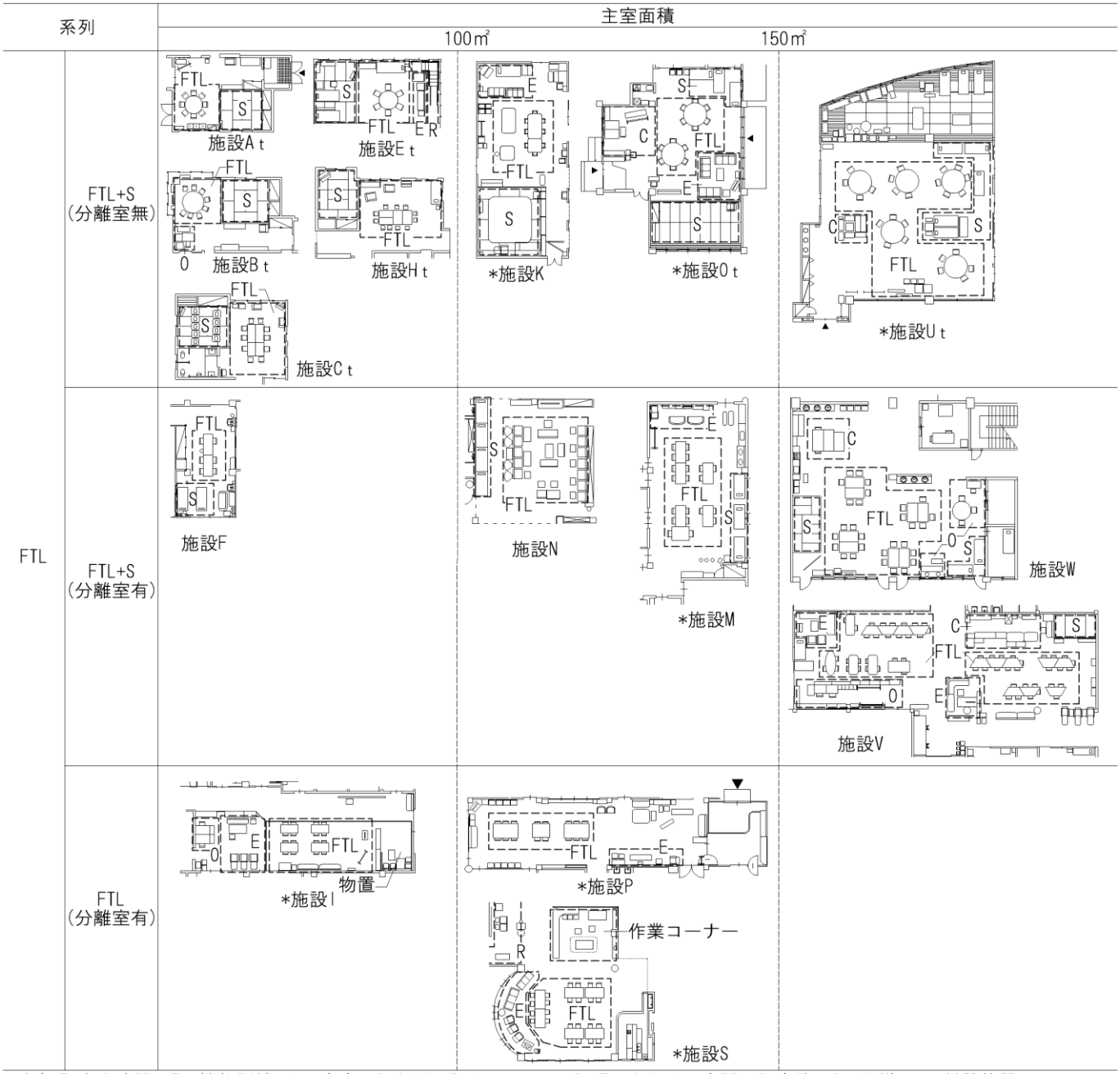

図 1　FTL 系列の主室のコーナー配置

空間も確保している。FL+FTS タイプは自由時間において居場所の選択が可能であるが、食事コーナーが分けられ、機能訓練及び午睡コーナーが重複したタイプである。FL+T(FT)+S タイプは FTL+S タイプ及び FL+FTS タイプからさらに機能分化が進んだタイプで、機能訓練及び食事、午睡コーナーがそれぞれ設けられたタイプである。分離室の有無は半数ずつであり、分離室有の場合は午睡室として使用された事例が多い。その他のタイプは FTL 系列にも FL 系列にも分類されない特殊なコーナー配置を有す事タイプである。以上より、自由時間、食事、機能訓練コーナーが重複した事例が多く、分離室を有す事例では、午睡室として使用されることが多いことから午睡コーナーを単独で設ける施設が多いことが分かる。

2.2　主室の面積規模とコーナー配置の関係

コーナー配置と分離室の有無及び面積規模の関係に着目し、その関係を整理する（表 2）。利用者の基本的な行為に加えて、職員の行為として事務（O）、配膳（C）コーナーを追加した。また、利用者の席に加えてソファやマッサージチェア等の別の空間を設ける施設もみられたことから空間ゆとりの空間（E）としてコーナーを追加した。主室の面積は 100 ㎡未満を小規模、100 ㎡以上 150 ㎡未満を中規模、150 ㎡以上を大規模の 3 区分に分けている。

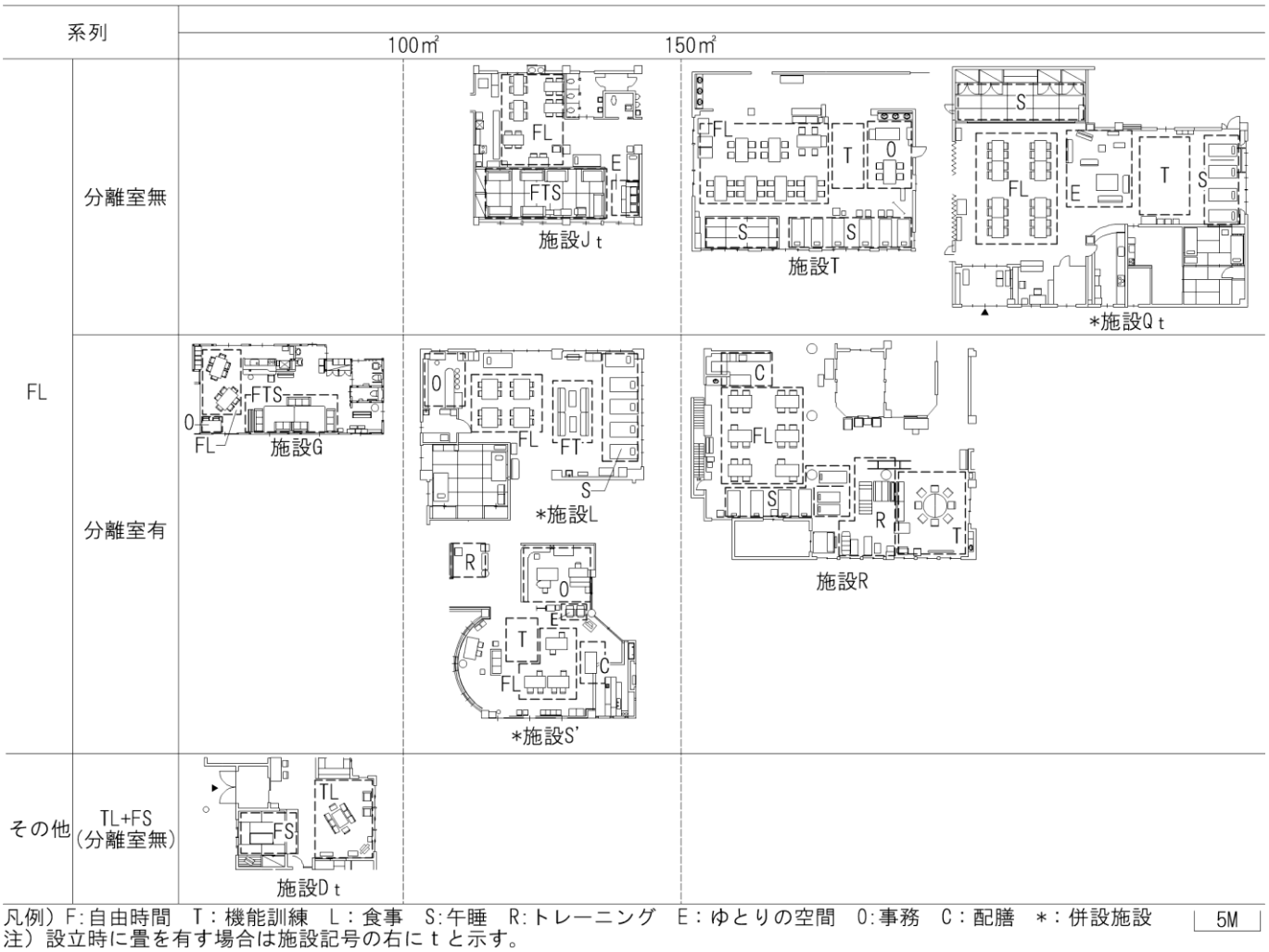

図 2　FL 系列・その他のコーナー配置

事務コーナーを設けた施設は 8 事例ある。系列との関係はみられず、事務室と主室が隣接していない、もしくは事務室から主室への視線の抜けが無い平面構成である施設にコーナーの設置がみられた[注 2)]。特に大規模施設では 6 施設中 3 施設と半数を占める。そのため、事務コーナーは事務作業と利用者の見守りを同時に行うことが求められていると考えられる。

配膳コーナーを設けた施設は 6 例あり、面積規模が比較的大きい施設で多くみられる。特に大規模である 3 施設は定員が 50 名と最も多く、配膳コーナーの設置により、ワゴン等で運ばれてきたご飯や汁物の盛り付け作業や配膳を効率的に行うことが可能となるため、コーナーを設けていると考えられる。

ゆとりの空間コーナーを設けた事例は 11 事例あり、中規模で 7 施設と最も多く、大規模では面積が広いにも関わらずゆとりの空間をもつ事例が少ない。これは大規模施設が定員 50 名と多く、余裕の空間を設けることが難しい点や、機能訓練や午睡コーナーを設ける施設もみられたことから、広い余裕の空間がある場合はゆとりの空間よりも機能訓練や午睡コーナーの需要が高いことが考えられる。

3. 系列別コーナー配置の特徴

主室におけるコーナー配置の特徴を系列別に整理する（図 1,2）。また、同系列においても分離室の有無による違いがあるため、FTL 系列は FTL+S が分離室の有無により FTL+S 一室タイプ、FTS+S 複室タイプ、FTL は分離室を有す事例のみのため FTL タイプの 3 タイプ、FL 系列は分離室の有無により FL 一室タイプ、FL 複室タイプの 2 タイプ、その他の系列は 1 タイプの計 6 タイプに分類した。

3.1　FTL+S 一室タイプ

FTL+S 一室タイプは施設設立時より畳空間を有す施設が 7 施設、畳を後付けした施設が 1 施設で全て畳空間を有す。大半の施設では畳空間は午睡に使われ、小規模施設でも明瞭な機能分化が可能である。施設 U のみレベル差が高いため、畳空間は使用されていない。そのため、ベッドを設置することで午睡を確保している。このタイプは小規模施設に多くみられ、小規模ながら午睡専用コーナーを設けており、午睡コーナーは最も機能分化が求められるコーナーといえる。

3.2　FTL+S 複室タイプ

FTL+S 複室タイプは中規模・大規模で多く、分離室を午睡室とする場合とトレーニングルームとする場合の 2 タイプに分かれる。分離室に午睡コーナーを有す場合は、午睡コーナーの広さが不十分である場合や認知度や介護度が高く午睡中の見守りが必要な場合に主室にも設けられ、比較的狭い。分離室にトレーニングルーム有す場合は、利用者の介護度が低く自立した生活維持のための施設設備の充実を優先していると考えられる。一方、午睡コーナーの需要も大きいため、比較的広いコーナーが設けられている。

3.3　FTL タイプ

主室で午睡やトレーニングを行わない FTL タイプは、分離室に午睡等の専用室を確保し、明確な機能分化をしている。そのため、主室では空間に余裕ができ、ゆとりの空間を設けることで、自由時間に利用者は場の選択が可能となる。小規模・中規模のみでみられ、定員数の多い施設や午睡時見守りが必要な介護度の高い利用者が多い施設では実現が難しいタイプといえる。

3.4　FL 一室タイプ

一室で食事と機能訓練を機能分化したタイプであり、小規模施設ではみられない。中規模施設では畳空間を有す施設が該当する。畳空間を午睡に使う施設が多いが、主室の半分程度の広い畳空間を有すことで午睡と機能訓練の機能を重複させることが可能となった事例である。大規模施設では食事、機能訓練、午睡コーナーが全て分かれている。機能訓練コーナーは家具が設置されてないが、隣接する食事コーナーの椅子の移動により機能訓練の種類によってレイアウト変更が容易である。施設設立時はフローリングのみであった施設 T では、簡易畳を配置することでベッドと畳の午睡コーナーを設けている。そのため、畳での午睡スペースは午睡の場の選択が可能となる点からも需要があるといえる。

3.5　FL 複室タイプ

小規模施設も該当しており、機能訓練コーナーはソファを配置することで午睡コーナーのみでは不足する午睡にも対応可能である。また、食事コーナーに加えて利用者の居場所を確保することができる。中規模では 2 施設が該当し、午睡コーナーがある施設では小規模と同様にソファ等を配置している。また、施設 S’では午睡は分離室のみで行われ、主室に午睡コーナーが無い。さらに定員数減少[注 3)]により空間に余裕ができたことから、機能訓練コーナーも確保できている。

3.6　その他のタイプ

その他のコーナー配置として機能訓練及び食事を重複したコーナーと自由時間及び午睡を重複したコーナーで構成される施設が該当した。自由時間を畳で過ごしたいという利用者の希望に対応したコーナー配置である。

4. まとめ

得られた知見は以下の通りである。

1) 主室のコーナー配置は利用者の主な行為の重複手法により 3 区分（FTL 系列, FL 系列, 特殊）に分かれ、さらにその他のコーナーの有無及び種類により 6 つに分類できた。また分離室の有無による特徴を整理すると、分離室を持たない FTL+S のコーナー配置を有す事例が 8 事例と最も多く、分離室を有す施設でもこのコーナー配置を基準としている。
2) 分離室を有す事例では、分離室は午睡コーナーとして利用される施設が多く、主室のみの施設においても午睡専用のコーナーを設けていることから、通所介護施設において午睡専用コーナーの需要は高いといえる。
3) 面積規模の拡大に伴い、事務室が主室に隣接していない施設や事務室と主室の間に視線の抜けが無い施設で事務コーナーを設ける事例が多い。そのため、事務コーナーは事務作業と利用者の見守りを同時に行うことが求められるといえる。
4) 畳空間で午睡を行う事例が多く、また、簡易畳設置し午睡コーナーとする施設もみられることから、午睡場所として畳の需要が確認された。
5) 小規模の施設でもソファ等を配置することで機能分化を行う事例がみられたことから、空間がワンルームである場合でも家具配置や畳空間を追加する等の工夫により、機能分化を行い利用者の要望に対応していることが伺える。

注釈

1) 自由時間には趣味活動やテレビ鑑賞、職員や他の利用者との歓談、次のプログラムへの待ち時間、無為の時間を含む。
2) 施設 B は設立時期が古く、設立時に事務室の設置が無く、余室も無いため主室内に事務作業を行うコーナーがある。
3) 施設 S は 2015 年より定員数が 35 人から 15 人に減少したことにより居室の用途に変化がみられたため、2 事例に区分し、定員数減少後を施設 S’とした。

参考文献

1) 伊藤朱子他 4 名：デイルームにおける家具配置の変化とその要因について，日本建築学会計画系論文集，第 78 巻第 686 号，pp. 775-782，2013. 04

* 山口大学大学院創成科学研究科　博士前期課程
** 山口大学大学院創成科学研究科　助教・博士（工学）
*** 山口大学大学院創成科学研究科　教授・工博
**** 山口大学大学院創成科学研究科　講師・博士（工学）
***** 筑波大学システム情報系　准教授・博士（工学）

* Graduate Student, Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ.
** Assistant Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.
*** Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.
**** Lecturer, Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ.
***** Associate Prof., Faculty of Eng., Info. and Systems, University of Tsukuba., Dr. Eng.